

大阪湾フェニックスの3期事業（神戸沖埋立処分場）に向けた取組の方向性について

大阪湾圏域広域処理場整備事業（大阪湾フェニックス事業）は、廃棄物の適正な処分と港湾の秩序ある整備を目的として行っている事業であり、これまで40年余りにわたり、近畿2府4県の関係する地方公共団体、港湾管理者及び大阪湾広域臨海環境整備センターが一体となって推進してきました。

令和6年度末までに、広域処理対象区域169市町村から発生したおよそ1億トンにも及ぶ廃棄物を処理しています。この中で、阪神・淡路大震災や能登半島地震等の災害廃棄物を受け入れ、災害復興にも大きく貢献しています。

2期神戸沖埋立処分場（以下「2期神戸沖」）は、令和12年度には現計画の廃棄物の受入を終了する見込みであり、フェニックス事業による広域処分場を継続的に確保するため、神戸港における3期事業の具体化に向けて検討を進めてきました。

今般、この間の工事費の高騰や、廃棄物の減量化・資源化の取組による圏域廃棄物量の減少等を踏まえ、具体的な事業手法について、下記のとおり関係者で確認しましたのでお知らせします。

記

- 1 受入期間 令和13年度～令和32年度の20年間とする
- 2 受入方法 2期神戸沖の上部空間を活用し、廃棄物を受け入れる